



# 記録誌

北海道洞爺湖サミット道民会議

# 北海道洞爺湖サミット

HOKKAIDO TOYAKO SUMMIT

2008.7.7▶7.9



記念植樹を行う G8 各国首脳と高橋知事（7月8日）

（提供：朝日新聞社）



アイヌ民族衣装を試着する各国首脳夫人（北海道情報館・7月8日）

SUMMIT PHOTO/JAPAN



## 序文 - ご挨拶



北海道洞爺湖サミット道民会議会長  
高橋 はるみ（北海道知事）

2008年7月7日から9日まで開催された北海道洞爺湖サミットは、22か国の首脳と7つの国際機関の代表が参加する過去最大規模のものとなりました。

サミットが無事に終わり、ホスト地域である北海道として安堵するとともに、大きな自信となりました。

道民会議は、北海道洞爺湖サミットの成功を期し、官民一体による受入体制の確立や関連事業の実施により、本道の活性化に資するために設立されました。

万全の体制でサミットを成功させる「開催支援」、北海道の魅力を世界の人たちに伝える「北海道発信」、開かれた心と細やかな気配りで大切なお客様に接する「おもてなし」、より良い環境と交流の絆を次の世代を担う子ども達に引き継ぐ「未来」の4つをキーワードに、様々な取組を進めました。

取組の推進にあたっては、各界各層の道民の方々からの寄附や協賛、応援等をいただいたところであり、官民が協働し、サミットの成功に貢献できたことを誇りに感じています。

サミットの開催により、様々なメディアを通じて本道の魅力を発信し、“北海道”の名前を世界中に広めることができたことは大きな財産であり、その効果は計り知れないものがあると思っています。

また、サミットは、環境に対する道民の意識の高まりや、食、観光、文化など、あらゆる面における北海道の価値を高める大きなきっかけを与え

てくれました。

今後は、こうした官民協働の取組を一層進め、サミットで得られた成果を観光の振興や道産品の販路拡大、国際会議の招致などに結びつけ、本道の活性化につなげていきたいと考えております。

また、今回のサミットでは、様々な場面で未来の北海道を担う子ども達が活躍してくれたことは大変嬉しく、心強く感じたところです。

子ども達がサミットで得た記憶や経験をしっかりと心に刻み、国際社会に生きる自覚や外国と接することで再発見できる「郷土を思う気持ち」を育まれることを心から期待しています。

この度、北海道洞爺湖サミットの準備から開催経過、道民会議や市町村等の取組をまとめ「北海道洞爺湖サミット記録誌」として刊行いたしました。

本道の歴史において他に類のない、世界的に重要な会議が北海道で開催されたことを未来に残すとともに、今後の道や市町村の施策展開や民間企業等の取組に役立てられることを期待しています。

最後になりますが、北海道洞爺湖サミットの開催をご決定くださった安倍晋三元総理大臣、サミットを成功に導かれた福田康夫前総理大臣をはじめ、政府関係者の皆さまにあらためて敬意と感謝の意を表しますとともに、ご協力いただいた道民の皆様、寄附や協賛・応援事業を通して道民会議にご支援いただいた個人、企業、団体の皆さま、そして警備や医療、消防など様々な分野で支援に携わっていただいた皆さまに心から感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 近 藤 龍 夫  
(北海道経済連合会会長)

主要8カ国に招待国を合わせ22カ国の首脳が参加する史上最大規模となったサミット、主要国首脳会議が自然豊かな北海道洞爺湖で開催され、成功裡に閉幕しましたことは、北海道の歴史の中でも記念すべき出来事でありました。

特に焦点となっていた気候変動問題については、議長国の日本がリーダーシップを発揮し、長期目標を採択する必要性について合意されるとともにすべての主要経済国による参加、セクター別アプローチの有用性等、ポスト京都議定書の国際枠組み構築に必要な要素についてG8各国で意見が一致し、北海道の地から世界に発信されたことは誠に意義深いことであります。

そして、今回のサミットにおいて北海道が「安心・安全」、「食」、「環境」などの面から国際会議開催の場として、また、観光地としても内外の方々から高い評価が得られ、北海道の知名度が向上した事は私たち道民にとって大きな成果でありました。

今後、このサミットによる知名度の向上を活用して地元開催地としてさらなる活性化を実現するため、官民協力体制の下、北海道への国際会議の誘致や観光振興、そして、食、環境など北海道の特徴を活かして世界に発信できる北海道づくりに積極的に取り組んでいくことが重要であると考えます。

最後になりましたが、サミットを成功に導いて下さった政府関係者の皆様、並びに当道民会議の構成団体をはじめ様々な事業に賛同・ご援助ご協力賜りました多くの企業や道民の皆様へ深く感謝申し上げます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 高 向 巖  
(社)北海道商工会議所連合会会頭)

この北海道において、G8首脳をはじめ、アメリカや主要経済国等、合計22カ国・7機関の参加を得て、北海道洞爺湖サミットが開催され、成功裡に閉幕したことは、北海道にとって大変に名誉なことと存じます。

政府のご努力はもちろんのこと、北海道においても官民一体となった協力体制の賜と敬意を表する次第です。

サミットにおかれては、世界経済、環境・気候変動などを主要議題として議論が行われ、その結果が「北海道洞爺湖サミット首脳宣言」としてアピールされました。

北海道は総面積の約7割が森林であり、環境問題で果たすべき役割が大きく、また安心安全な日本の食糧基地として果たす役割も大変重要であります。

サミットを通じ、北海道の豊かな自然環境や豊かかつ新鮮な味覚、また文化や個性などの多くの魅力が国内外に発信されましたことは、本道の基幹産業である「食」と「観光」にとって、誠に喜ばしいことであります。

今後も北海道の強みを生かした一次産品・加工品の開発に取り組むほか、東アジア等への食料輸出や国内外からの観光客誘致など、サミットの成果を北海道経済の活性化につなげるとともに、ECOに対する意識をより高め、二酸化炭素の排出量削減にも積極的に取り組む必要があります。

本道民会議の事業に賛同いただき、ご協力を賜りました多くの企業やボランティアの皆様、道民並びに関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 佐々木 正 丞  
(北海道経営者協会会長)

過去最大規模の合計 22 か国・7 機関が参加したサミットが、本年 7 月 7 日から 3 日間北海道洞爺湖で開催され、成功裡に終了したことは、本道の歴史の中で記念すべきことであり、誠に喜びに堪えません。

1 年余という短い準備期間で最大限の協力・支援体制を整えることが出来たことは、政府のご努力は勿論のこと、官民一体で「北海道洞爺湖サミット道民会議」を組織し、官民協働による効果的・効率的な取組みを展開した賜と深く敬意と感謝を表すものであります。

サミットでは、世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカおよび政治問題を主要議題として議論が行われ、G8 に加えて、アフリカ諸国や主要経済諸国との拡大会合等が精力的に開催されました。

また、6 月にサミット連携事業として開催した「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展 2008」では、当初見込みを大幅に上回る来場者を迎えるとともに、世界へ大いに情報発信することが出来ました。

本道経済は厳しい状況にあり、北海道新幹線、高速道路等の社会資本整備や産業構造の高度化を進め、自立経済を確立することが急がれます。

今後は、北海道洞爺湖サミットの成果を将来にわたって持続させ、北海道全体の活性化に結びつけていくため、官民連携をいっそう強化するとともにオール北海道での取組を展開することが重要であります。

最後になりましたが、道民会議の運営をはじめ、様々な事業にご協賛、ご協力賜りました多くの企業、道民の皆さまに深く感謝申し上げます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 坂 本 眞 一  
(北海道経済同友会代表幹事)  
(社)北海道観光振興機構会長)

北海道・洞爺湖サミットが、美しい自然と独特な文化をもつこ北海道で平成 20 年 7 月に開催され、無事、成功裏に終了いたしました。

今回のサミットの主要テーマは環境でしたが、世界に向けて「北海道」・「洞爺湖」がいかにかに発信されるか、そこにどれだけの北海道の魅力を付加できるかが重要と考えていました。そのため来訪する各国の関係者、ジャーナリストの皆様にも少しでもよいイメージをもっていただき、世界に向けて発信されるよう努力をしてきました。おかげさまで、ある程度、北海道のすばらしさを PR ができたのではないかと考えています。

そして、今回のサミットの最も大きな成果は、北海道民の観光に対する意識の変化だったと私は考えています。これまで観光が主要産業というイメージは北海道の人たちにはほとんどありませんでしたが、多くの人に来ていただくということが大きな経済効果につながり、北海道にとって観光産業が不可欠であると自覚していただけたこの点が非常に重要だと思っております。

最期に、観光地間の国際競争が激化するなか、自然環境、生活環境、さらには人間的魅力あふれる資源を武器に、オンリーワン、オリジナルな北海道観光の発展、拡大に向けて努力していきたいと考えています。





北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 飛田 稔 章  
(北海道農業協同組合中央会)

G8 主要国首脳会議が北海道で開催され、成功裡に閉幕しましたことは、北海道の歴史の中でも記念すべき出来事であり、慶びに堪えません。これも政府のご努力は勿論のこと、開催地北海道においても官民一体となった組織的な協力体制の賜と深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

今回のサミットは「環境」とともに「食料」が主要テーマとなっており、1次産業団体として、サミット開催は北海道の農畜産物、水産物を国内外にアピールする絶好の機会と捉えておりました。

首脳会議場や国際メディアセンター等サミット行事における道産食材の積極的な活用に取り組み、また、北海道農漁業の紹介や食材のPRができ、この機会に北海道農畜産物・水産物の「安全」「安心」を世界に向け積極的に発信することに努めました。

今回の取り組みを成果として持続させるため、食料の重要性の認識と美味しく安全・安心な食づくりを国内外に発信し、北海道の食のブランドが確立され未来につながる展開となりますことを願い、さらに努力していかなければならないと考えております。

末尾になりますが、当道民会議の構成団体をはじめ、様々な事業にご賛同・ご援助ご協力賜りました多くの企業やボランティアの皆様等関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 上田 文雄  
(札幌市長)

サミットの北海道開催が決定して以来、札幌市もサミットの成功に向けて道都としての役割を果たすべく、官民挙げて準備に当たってまいりましたが、大きな混乱もなく無事終了することができました。

札幌市には、中国、韓国をはじめとする10カ国のアウトリーチ諸国の首脳と、国連などの4つの国際機関の長が滞在され、地元を挙げて歓迎レセプションを開催いたしました。これだけ多くの要人が札幌に滞在された経験は過去にありませんでしたが、地元の歓迎の熱意は十分伝えることができたと思います。

また、政府関係者やプレス、NGOなど、国内外から数多くの方々が来訪されましたが、官民合同で設立した「北海道洞爺湖サミット札幌おもてなし委員会」を中心に、学生や市民ボランティアなど様々な団体が創意工夫をして温かいおもてなしを行い、札幌・北海道の魅力を世界に発信する素晴らしい機会となりました。

さらに、環境が主要テーマとなったサミットにあわせて「こども環境サミット札幌」を開催し、世界11カ国102人の子どもたちが、地球環境の未来について真剣な議論を行ったほか、豊かな自然を次の世代に引き継いでいけるよう、「環境首都・札幌」宣言を行い、市民一人ひとりが行動を起こすことを誓いました。

今後、札幌・北海道が国際的に魅力ある地域としてさらに飛躍するためには、このサミットで実施した様々な取り組みの経験を生かし、市民・道民一丸となって努力を重ねていくことが重要ではないかと考えております。

終わりに、サミットの成功に向けてご支援、ご協力をいただいた多くの関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



北海道洞爺湖サミット道民会議  
副会長 新宮 正志  
(北海道洞爺湖サミット胆振地域  
推進会議会長)

7月7日からの3日間にわたり胆振管内洞爺湖エリアで開催された北海道洞爺湖サミットが大きな混乱もなく無事に終了し、実りのあるものであったことは何より喜ばしく、環境やエネルギー、アフリカなどの世界的な問題を本道有数の温泉地や美しい自然景観、さらには豊かな農林水産物など多様な資源を有するこの胆振地域で話し合われたことの意義や重大さを改めて感じております。

胆振管内でもサミットを機にガイアナイトや環境啓発事業、さらに各種団体などによる取り組みがあり、地球環境を考える契機となったところですが、環境意識の啓発は今後も継続していくことが重要であると思っております。

また、サミット期間中は道内各地で各国首脳等と地域との交流事業が実現し、地元住民との幅の広い交流が図られたほか、各国の首脳ならびに配偶者を北海道の素晴らしい食材を使用した料理でお迎えするなど、北海道の良さを国内外に向けて発信し、北海道はもとより地域の知名度は飛躍的に向上しました。

今後、地域に存在する様々な資源に目を向け、国内・国際競争に対応する産業の展開や国際観光の振興、安全・安心な道産食材のブランド化など、地域一体となって魅力あるエリア形成に取り組んでまいり、当地域から北海道経済を牽引してまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 「北海道洞爺湖サミット」に向けた取組一覧

事業項目	平成19年(2007年)			
		1月	2月	
体制	開催決定(4/23) 名称決定(5/19) 道民会議設立(6/18) 道サミット推進局設置(5/1) 道推進本部設置(6/18) 道議会特別委員会設置(6/15) サミット連絡会議(6月、7月) サミット連絡会議(10月) サミット関係市町村連絡会議(12月)			
寄附 協賛・応援	寄附募集(12月-) 協賛・応援事業募集(9月-H20.7)			
開催支援	宿泊予約センター設置・運営(10月~ H20.9) 地域住民懇話会(8月3回・10月1回) 市町村関係者懇話会(12月・1回) サミット通信(12月1,2号)	サミット通信(第3号)	サミット通信(第4号)	
北海道発信	ポータルサイト開設・運営(10月~ H20.10) 北海道情報誌(データブック・11月発行) プレスツアー(11月・第1回) プレスツアー(12月・第2回) フォーリン・プレス・センタープレスツアー(8/30-) 外務省招聘海外報道関係者対応(7月、12月・各1回) 日本外国特派員協会知事ブリーフィング(11月) 北海道洞爺湖サミットの夕べ(11月)		北海道情報誌(エリアガイド発行) プレスツアー(第3回) 外務省招聘海外報道関係者対応(2回) 北海道情報館企画検討 各国先遣隊歓迎夕食会(1回)	
おもてなし	1年前イベント(7/7) カウンタダウンボード設置(7月・洞爺湖町・道庁) カウンタダウンモニュメント設置(12月・新千歳空港) カウンタダウンモニュメント設置(JR札幌駅前) 道民会議シンボルマーク選定・活用(10月~) 公式ポスター、リーフレット作成・活用(10月~) 歓迎装飾用共通デザイン制作・掲出(12月~)		動画CM作成・活用 おもてなしクリーンアップ運動	
未 来	「未来への夢、世界との絆」 プロジェクト募集	「未来への夢、世界との絆」 プロジェクト大使館等への要請		
連携プロジェクト事業	花いっぱいでお迎えプロジェクト 連絡調整会議設置(11月)	北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008 実行委員会立上げ フットパス	花いっぱいでお迎えプロジェクト 推進構想策定	雪まつり・冬まつり連携事業



平成20年(2008年)					
3月	4月	5月	6月	7月	8月以降
	サミット関係市町村連絡会議		サミット連絡会議 サミット関係市町村連絡会議		
地域住民懇話会(1回) サミット通信(第5号)	サミット通信(第6号) 弁当供給センター設置・運営(～10月)	サミット懇話会(1回) サミット通信(第7号)	地域住民懇話会(8回) サミット通信(第8号)	インフォメーション(7/1-10) ボランティア活動(7/1-10) ボランティア解散(7/25) プレスワーキングルーム(7/5-10) 空港等での首脳歓迎(7/6-9) YOSAKOIソーラン披露(7/7) NGOへの宿营地提供(7/1-10) 安全確保の取組(7/1-10)	
外務省招聘海外報道関係者対応(1回)	プレスツアー(第4回)	プレスツアー(第5回) 外務省招聘海外報道関係者対応(1回) サミット関係会合での広報(3回)	北海道情報誌(ハンドブック発行) フォーリン・プレス・センター プレスツアー 外務省招聘海外報道関係者対応(2回) サミット関係会合での広報(4回)	広報資料セット配布 北海道情報館(7/5-10) Yokoso! HOKKAIDO PASS (7/2-6 7/10-14) アウトリーチ国・国際機関 歓迎レセプション(7/6,8)	
各国先遣隊歓迎夕食会(1回)	各国先遣隊歓迎夕食会(3回)	各国先遣隊歓迎夕食会(2回)	各国先遣隊歓迎夕食会(6回)	G8大学サミット歓迎レセプション ウェルカム・ギフト 記念アルバム表紙生地の提供	
ガイアナナイト(3/30)			ガイアナナイトイベント in Tokyo ワンガリ・マータイ氏来道	ガイアナナイト(7/7) J8サミット参加者と 道内高校生との交流(7/8) 「未来への夢、世界との絆」 プロジェクトの実現 アウトリーチ各国首脳等と 道民との交流	サミット展(10月-)
	花いっぱいでお迎えプロジェクト キックオフセレモニー	花いっぱいでお迎えプロジェクト 各種事業の実施 フットパス・エコツーリズム振興 実行委員会設立	北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008 モデルコース完成	空き店舗活用・観光PR事業 洞爺湖ふれあい情報TOWN (7/1-10)	エコツーリズム 全国大会 in 洞爺湖(10月)

グラビア	
序文—ご挨拶	3
「北海道洞爺湖サミット」に向けた取組一覧	8
<b>第1編 サミット会合開催概要</b>	
第1章 G8 サミットの概要	14
第2章 北海道洞爺湖サミットの概要	
1 日程	15
2 参加国・参加者	16
3 関連施設	17
4 会合等の概要及び成果	19
第3章 関連行事	
1 配偶者プログラム	22
2 J8 サミット 2008 千歳支笏湖	24
第4章 NGO との対話	
1 NGO の取組	26
2 NGO センター	27
<b>第2編 サミット開催に向けて</b>	
第1章 誘致	
1 経緯	30
2 各団体・市町村からの要望	30
3 議会議論	30
4 誘致決定	30
5 北海道の提案内容	30
6 知事・洞爺湖町長・経済団体等による要請活動	31
7 国による事前調査	31
8 2008 年北海道サミット誘致推進協議会	32
9 開催決定	32
10 開催日及び名称の決定	32
11 沖縄視察	33
第2章 体制	
1 道庁内の推進体制	33
2 北海道洞爺湖サミット道民会議	36
3 北海道洞爺湖サミット推進特別委員会	40
4 国や市町村等関係機関との協力体制	41
<b>第3編 道民会議等の取組</b>	
第1章 概要	
1 取組の基本的な考え方	44
2 企業、団体等との協働の推進	45
第2章 開催支援	
1 サミットの円滑な開催に向けた地域との連携	47
2 宿泊予約センター	50
3 輸送	52
4 弁当供給センター	53
5 インフォメーション	54
6 道民会議ボランティア	56
7 プレスワーキンググループ	58
8 空港等における首脳歓迎	59
9 「YOSAKOI ソーラン」披露	62
10 NGO 対応	62
11 地域の安全確保に向けた取組	64
12 サミット通信	65
第3章 北海道発信	
◆北海道情報の総合的な発信	
1 ポータルサイト	66
2 北海道情報誌	67
3 道民会議広報資料セット	68
4 プレスツアー	69
5 外務省招へいによる海外報道関係者の来道等	71
6 日本外国特派員協会における知事ブリーフィング	72
7 北海道洞爺湖サミットの夕べ	73
8 各国先遣隊歓迎夕食会	74
9 G8 サミット関係会合における広報活動	76
10 国際メディアセンター開所式・開所記念レセプション	77
11 北海道情報館	78

12	Yokoso! HOKKAIDO PASS	81	4	歓迎装飾	101
13	アウトリーチ国・国際機関歓迎レセプション	82	5	G8 大学サミット歓迎交流	103
14	配偶者プログラム	85	<b>◆おもてなしの充実</b>		
15	北方領土問題の理解促進	86	1	おもてなしクリーンアップ運動	104
<b>◆環境</b>			2	景観対策	106
1	「北海道環境宣言」	87	3	ウェルカム・ギフト	106
2	地球温暖化防止対策	87	4	記念アルバム表紙生地の提供	108
3	サミット関連情報発信体制	87	5	各国首脳から知事への贈呈品・礼状	108
4	道内の新エネルギー・省エネルギー技術のPR等	88	<b>第5章 未来</b>		
5	子ども達を対象とした環境サミット	88	1	ガイアナナイト	109
6	地域発の環境行動	89	2	ワンガリ・マータイ氏の来道	112
7	環境教育	89	3	J8 サミット参加者と道内高校生等との交流	112
8	北の大地の森林づくり等	89	4	各国首脳等と道民との交流	115
9	知床世界自然遺産等のPR	90	5	G8 以外の国々等の首脳と道民との交流	118
<b>◆食</b>			6	記念植樹	119
1	道産食材の利用促進	91	7	北海道洞爺湖サミット展	121
2	食の連携・クオリティアッププロジェクト	93	<b>第6章 連携プロジェクト事業</b>		
<b>◆観光</b>			1	北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008	123
1	観光プロモーションの強化	94	2	花いっぱいでお迎えプロジェクト	126
2	北海道ならではのニューツーリズムの推進	95	3	北海道フットパス事業	128
3	外国人観光客受入環境の整備	95	4	空き店舗活用・観光PR事業	130
<b>◆芸術文化</b>			5	雪まつり・冬まつり連携事業	132
1	国宝・中空土偶	95	<b>第7章 地域の取組</b>		
2	アイヌ文化	95	1	札幌市	134
3	北海道開拓の村	96	2	千歳市	136
4	各種行事における伝統芸能等の紹介	96	3	胆振支庁管内	138
<b>第4章 おもてなし</b>			4	後志支庁管内	144
<b>◆歓迎気運の醸成</b>			<b>第8章 消防・保健医療</b>		
1	カウントダウンボード等	97	1	消防	149
2	シンボルマーク	98	2	保健医療	152
3	公式ポスター、リーフレット・動画CMの作成	100	<b>第4編 予算・決算</b>		
			<b>第1章 道民会議事業</b>		
			160		
			<b>第2章 行政事業</b>		
			163		



## 資料編

### (北海道洞爺湖サミット道民会議関係)

- 1 道民会議規約……………166
- 2 道民会議役員名簿……………169
- 3 道民会議部会運営要綱……………170
- 4 道民会議事務局規程……………172
- 5 道民会議事業計画……………177
- 6 道民会議寄附等要綱……………184
- 7 道民会議寄附趣意書……………185
- 8 寄附者一覧……………186
- 9 物品寄附等一覧……………198
- 10 協賛・応援事業に関する提案募集要領 199
- 11 協賛・応援事業一覧……………201
- 12 プレスツアー参加記者執筆記事……………211
- 13 「北海道情報館」コンテンツ等一覧……………217
- 14 サミット活用食材リスト……………225
- 15 道民会議シンボルマーク使用取扱要領 231
- 16 シンボルマーク使用企業・団体一覧…233
- 17 ガイアナイト(3月30日)イベント・参加  
表明企業一覧……………235
- 18 ガイアナイト(7月7日)イベント・参加  
表明企業一覧……………240
- 19 キャンドルアート応募作品一覧……………245

### (北海道・市町村関係)

- 20 北海道洞爺湖サミット推進本部設置要綱  
……………249
- 21 北海道洞爺湖サミット消防特別警戒系統  
図……………251
- 22 サミットにおける道内及び道外応援体制  
について……………252
- 23 北海道洞爺湖サミット保健医療対策部会  
設置要綱……………253
- 24 知事臨時記者会見記録……………255
- 25 北海道知事定例会見記録……………258
- 26 北海道・道内市町村における取組カレン  
ダー……………265

### (感謝状)

- 27 内閣総理大臣から北海道洞爺湖サミット  
道民会議への感謝状……………270
- 28 消防庁長官から北海道防火航空隊への褒  
状……………270

### (サミットの成果)

- 29 G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言(仮訳)  
……………271
- 30 J8 サミット「千歳宣言」及び「J8 アクシ  
ョンプラン」……………283
- 31 サミット開催に伴う生産波及効果分析(概  
要版)……………285
- 32 サミットの報道を通じたPR効果(概要版)  
……………290

# 第1編

## サミット会合開催概要

## 第1章 G8 サミットの概要

G8 サミットとは、日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、イギリス、アメリカの8カ国の首脳及び欧州連合(EU)の委員長が参加して毎年開催される首脳会議である。サミットは、「山の頂上」という意味の英語であり、8カ国の首脳(国のトップ=頂上)が集まることから「G8 サミット(group of eight の略)」と呼ばれている。



8カ国の首脳が集まることからG8サミットと呼ばれる

第1回のサミットは、昭和50(1975)年にフランスで開催され、その後は毎年各国の持ち回りで開催されている。北海道洞爺湖サミットで34回目の開催となり、日本での開催は、昭和54(1979)年(東京)、昭和61(1986)年(東京)、平成5(1993)年(東京)、平成12(2000)年(沖縄)に続き5回目となった。



議長として采配をふるう福田総理大臣

サミットは、当初は主に経済問題についての討議の場であったが、時代の変遷とともに議題も多岐にわたるようになり、冷戦問題や冷戦後の南北問題などその時々々の政治問題をはじめ、近年では、地球温暖化等地球規模で解決を迫られる課題等も

議論されるようになった。こうした国際社会が直面する様々な課題について、サミットでは、主要国のトップがひとつのテーブルを囲んで話し合い、非公式かつ自由闊達な意見交換を通じてコンセンサスを形成し、トップダウンで物事を決定することを目的としている。

グローバル化の進展とともに、適切な決断と迅速な措置が求められる中、主要国の政策協調の場であるサミットの重要性はますます高まっている。



首脳同士の自由な意見交換がサミットの特徴

また、討議内容の広がり等を踏まえ、平成12年の九州・沖縄サミット以来、G8以外の国々(アウトリーチ国)との対話も行われるようになっていく。



近年では、G8以外の国々も対話に参加



## 第2章 北海道洞爺湖サミットの概要

### 1 日程

北海道洞爺湖サミットは、平成20(2008)年7月7日(月)から9日(水)の3日間の日程で開催

された。G8に加え、アフリカ諸国や主要経済国等からの参加も得て、合わせて22カ国と7機関が参加する過去最大規模のサミットとなり、G8の会合のほかG8以外の国々も加えた拡大会合も開催された。

#### 【サミット日程】

7月7日(月)	7月8日(火)	7月9日(水)
		08:30 拡大会合ワーキングセッション(b)
	10:00 G8ワーキングセッション	10:00 主要経済国会合(c)
	12:00 首脳記念植樹・記念撮影	12:05 写真撮影(c)
12:30 拡大会合ワーキングランチ(a)		12:30 拡大会合ワーキングランチ(c)
	13:00 G8ワーキングランチ	
14:05 写真撮影(a)		
14:30 拡大会合ワーキングセッション(a)	15:00 G8ワーキングセッション	
		15:30 議長国記者会見
19:00 G8社交行事 (七夕行事) (J8による提言書提出) (YOSAKOIソーラン)	19:00 G8ワーキングディナー	
19:40 G8社交ディナー		

- ※ (a) : G8、アルジェリア、エチオピア、ガーナ、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、タンザニアの各国首脳、アフリカ連合(AU)委員長、国際連合事務総長、世界銀行総裁  
 (b) : G8、ブラジル、中国、インド、メキシコ、南アフリカの各国首脳  
 (c) : G8、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、メキシコ、韓国、南アフリカの各国首脳、国際連合事務総長、世界銀行総裁、国際通貨基金(IMF)専務理事、経済協力開発機構(OECD)事務総長、国際エネルギー機関(IEA)事務局長



G8 ワーキングセッション (7/8)



G8 社交ディナー (7/7)



主要経済国会合 (7/9)

## 2 参加国・参加者

### 【G8】

国名	名前
日本	福田康夫総理大臣
カナダ	スティーブン・ジョセフ・ハーパー首相
フランス共和国	ニコラ・サルコジ大統領
ドイツ連邦共和国	アンゲラ・メルケル首相
イタリア共和国	シルヴィオ・ベルルスコーニ首相
ロシア連邦	ドミトリー・アナトリエヴィチ・メドヴェージェフ大統領
英国 (グレートブリテン及び 北アイルランド連合王国)	ゴードン・ブラウン首相
アメリカ合衆国	ジョージ・ウォーカー・ブッシュ大統領
欧州連合	ジョゼ・マヌエル・バローゾ欧州委員会委員長



### 【アフリカ諸国】



国名	名前
アルジェリア民主人民共和国	アブデラジズ・ブーテフリカ大統領
エチオピア連邦民主共和国	メレス・ゼナウィ首相
ガーナ共和国	ジョン・アジェクム・クフォー大統領
ナイジェリア連邦共和国	ウマル・ムサ・ヤラドゥア大統領
セネガル共和国	アブドゥライ・ワッド大統領
南アフリカ共和国	ターボ・ムヴィエルワ・ムベキ大統領
タンザニア連合共和国	ジャカヤ・ムリシヨ・キクウェテ大統領
アフリカ連合	ジャン・ピン委員長

### 【主要経済国(G8を除く)】

国名	名前
オーストラリア連邦	ケビン・ラッド首相
ブラジル連邦共和国	ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領
中華人民共和国	胡錦濤国家主席
インド	マンモハン・シン首相
インドネシア共和国	スシロ・バンバン・ユドヨノ大統領
大韓民国	李明博大統領
メキシコ合衆国	フェリペ・カルデロン・イノホサ大統領
南アフリカ共和国	ターボ・ムヴィエルワ・ムベキ大統領

### 【国際機関】

機関名	名前
国際連合	潘基文事務総長
世界銀行	ロバート・B・ゼーリック総裁
国際通貨基金(IMF)	ドミニク・ストロス・カーン専務理事
経済協力開発機構(OECD)	アンヘル・グリア事務総長
国際エネルギー機関(IEA)	田中伸男事務局長



※欧州連合とアフリカ連合は、それぞれ「G8」「アフリカ諸国」の欄に掲載

### 3 関連施設

#### (1) 首脳会議場

首脳会議は、「ザ・ウィンザーホテル洞爺」において開催された。同ホテルは、首脳会議(G8 ワーキングセッション、拡大会合ワーキングセッション等)以外にも、配偶者プログラム、社交行事等、記者会見を除く公式行事の会場となったほか、G8 首脳及び代表団の宿舎としても利用された。



ザ・ウィンザーホテル洞爺と洞爺湖

#### 【ザ・ウィンザーホテル洞爺概要】

洞爺湖畔の山上に建ち、東に洞爺湖、西に太平洋を見下ろすリゾートホテル。地上 11 階、地下 1 階の建物に 398 の客室を擁する。

#### 【ホテル内に設置された主な施設】

- ・ 首脳会議場
- ・ 二国間会談室
- ・ 各国代表団事務室
- ・ G8 首脳及び代表団宿泊室
- ・ レストラン

#### 【ホテルへのアクセス】

ホテル周辺は、一般の立ち入りが制限され、ホテルへのアクセスは、政府発行の ID 所有者に限定されるとともに、ホテル周辺に設置されたチェックポイントを通過することとされた。

#### (2) 国際メディアセンター

外務省は、約 4,000 名と見込まれた報道関係者の作業支援のため、「国際メディアセンター」をルスツリゾート敷地内に設置した。既存施設の「ホテル&コンベンション」及び仮設施設の「ザ・メイン」で構成された。

なお、国際メディアセンター及び同センター内に設置した北海道情報館のオープンに際して、道民会議は国と連携して、道内外の関係者を招き、テープカット及び主要施設の内覧やレセプションを開催した(北海道情報館の詳細は P78、レセプションの詳細は P77 参照)。



国際メディアセンター・ザ・メイン

#### 【ザ・メインの整備概要】

建物の整備業務は外務省から支出委任を受けた国土交通省(北海道開発局)が担当し、ルスツリゾートの第 3・4 駐車場に建設した。

#### ・ 開設期間

平成 20 (2008)年 7 月 5 日(土)正午 - 7 月 10 日(木)正午(期間中 24 時間運営)

#### ・ 利用対象者

北海道洞爺湖サミット取材記者証及び政府発行の ID 所有者に限定。

#### ・ 整備費

約 28 億円

#### ・ 環境への配慮

建材、工法、使用機器等について 3R (Reduce, Reuse, Recycle)等環境への配慮が行われ、間伐材や雪水冷房など道産資材や北海道に根ざした環境技術も導入された。

#### 【主な施設・サービス】

「ホテル&コンベンション」内には、入場ゲート(ID 識別機、金属探知器)、各国報道担当官連絡室、政府関係機関によるブース、レストラン(4ヶ所)が設置されたほか、道民会議が北海道情報館を設置した。

「ザ・メイン」内には、環境ショーケース、イン



フォーメーションデスク、代表取材者デスク(プールデスク)、プレス関係者の共用ワーキングスペース、議長国報道担当本部、国際放送センター、首脳記者会見場(議長会見場、各国首脳会見場)が設置された。



国際メディアセンターに設置された議長記者会見場

#### 【環境ショーケース概要】

ザ・メインの入口部分(約 1,000 m<sup>2</sup>)や屋外(約 7,600 m<sup>2</sup>)を利用し、我が国の環境における取組のほか、燃料電池、ヒートポンプ、太陽光発電、炭素繊維、水処理などの最先端の環境技術等の展示やデモが行われた。



環境ショーケースを視察する G8 首脳夫人

環境ショーケースと併せて、北海道関連の展示も行われ、宗谷ウィンドファーム(稚内市)、稚内メガソーラー(稚内市)、雪氷冷熱技術(沼田町)、温泉廃熱利用技術(洞爺湖町)、バイオディーゼル燃料(洞爺湖町)などの環境技術や、道内国立公園などの北海道関連のパネルが展示された。

また、屋外駐車場には、次世代自動車(燃料電池自動車、電気自動車等)の試乗スペースや、我

が国のエネルギー・環境に関する先端技術を備えた日本家屋型モデルハウス「ゼロエミッションハウス」が設置された。



次世代自動車を体験するハーバー加首相夫人

なお、首脳会議場～国際メディアセンター間においては、環境に配慮した次世代自動車(燃料電池バス)などを活用したシャトルバスが運行された。福田総理や首脳配偶者が視察に訪れたほか、連日多数の報道関係者による取材、報道が行われた。

### (3)政府代表団宿舎

ザ・ウィンザーホテル洞爺に宿泊できる人員は限られているため、G8 各国代表団の宿舎として、洞爺湖町及び壮瞥町をはじめとする洞爺湖温泉近隣のホテル等が利用された。また、宿泊したホテル内には各国政府の事務室も設置された。

なお、拡大会合に出席した G8 以外の首脳は、主に札幌市内のホテルに宿泊した。

### (4)日本政府現地事務局

外務省 G8 サミット事務局をはじめ、日本政府の現地作業の拠点としては、洞爺湖町の旧火山科学館が使用された。北海道の洞爺現地事務所も旧火山科学館内に設置され、現地における情報収集や関係機関との連絡調整に当たった。



日本政府現地作業室等がおかれた旧火山科学館

## (5) 空港

各国の政府専用機等の離発着には、新千歳空港が利用された。新千歳空港には、各国首脳の到着及び出発を支援するため、仮施設として、貴賓室及び合同事務棟が国土交通省により設置された。

なお、道及び道民会議では、合同事務棟及び空港ターミナルビル内に現地事務所を設置し、首脳の歓迎行事支援及び来道者の移動支援を行った。(首脳の歓迎行事の詳細は P59 参照)。



メルケル独首相の空港出迎え

### 【貴賓室及び合同事務棟概要】

区分	貴賓室	合同事務棟
目的	出迎者の待機、首脳等の緊急待機場所	各省庁・道連絡所、プレス待機場所
階数	平屋建	平屋建
軒高	4.006m	3.771m
床面積	196.57㎡	392.31㎡
構造	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造
駐車場	10台	394台
費用	91,350千円	
その他	建築部材の一部にリース部材を使用(仮設撤去)	

## 4 会合等の概要及び成果

### (1) 7月7日の概要

#### 【G8 とアフリカ諸国との拡大会合】

G8に加え、アルジェリア、エチオピア、ガーナ、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、タンザニアの首脳とアフリカ連合委員長及び国際連合事務総長、世界銀行総裁が出席して開催され、福田総理大臣より、5月に開催された第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)の成果が報告されたほか、食料価格高騰を含むグローバルな課題について議論が行われた。

#### 【首脳記念撮影】

雨模様のため、屋外で予定されていた記念撮影場所をホテルロビーに変更して行われた。

#### 【G8 社交行事】

夜には、G8 社交行事として七夕関連行事が行われ、ホテルロビーに、日本の伝統文化を紹介するため「天の川オブジェ」が設置され、各国首脳が願いをつづった短冊が飾られた。

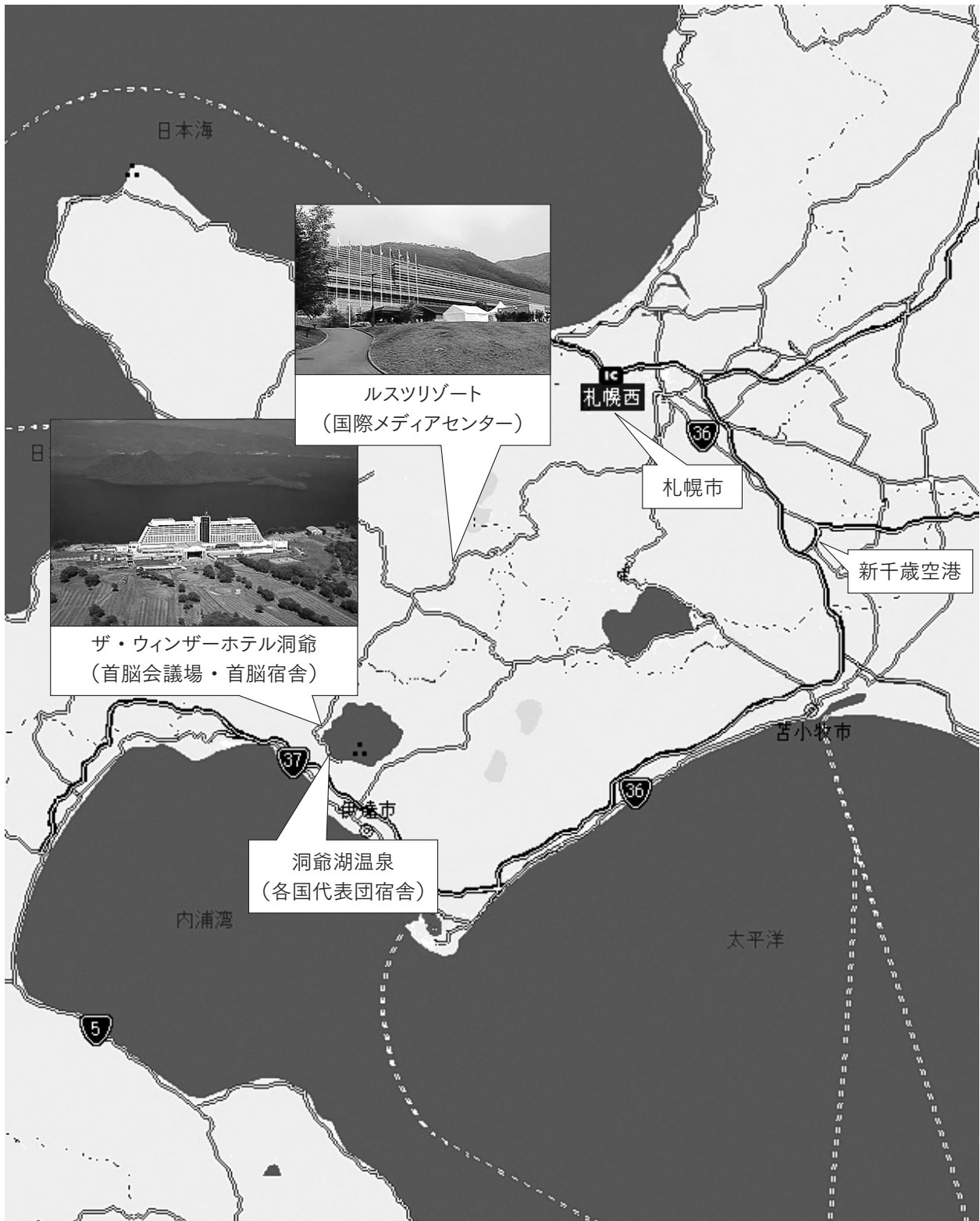


七夕関連行事で願いをつづった各国首脳

また、ジュニア・エイトサミット(J8)代表者による宣言文の提出が行われ、福田総理大臣に手渡された(J8の詳細は P24 参照)。

その後、ホテルロビー向かいの噴水前に設けられた特設ステージで「YOSAKOI ソーラン」及び「手筒花火」が披露された(「YOSAKOI ソーラン」の詳細については、P62 参照)。なお、噴水周りのテラスには、地元の小学生が「美しい地球・自然環境」をテーマに描いた絵を燈籠型に制作した「明かり絵キャンドルライト」が展示された。

## 関連施設位置図





## (2) 7月8日の概要

### 【G8 首脳会合】

世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカ及び政治問題を主要議題として終日議論が行われた。

### 【首脳記念植樹及び記念撮影】

ワーキングランチの前に、G8 首脳による記念植樹及び記念撮影が行われた。記念植樹は、サミットの開催を記念するとともに、地球環境保全の取組に向けた北海道からの発信を目的として、高橋知事の案内により実施された(記念植樹の詳細は P119 参照)。



G8 首脳に説明を行う高橋知事

## (3) 7月9日の概要

### 【拡大会合及び主要経済国会合等】

早朝より、G8 と新興経済国(ブラジル、中国、インド、メキシコ、南アフリカ)との拡大会合が行われ、原油価格高騰や食料価格問題について議論が行われた。

引き続き、拡大会合に参加した国に加え、オーストラリア、インドネシア、韓国及び国際連合などの国際機関が参加して主要経済国会合が行われ、気候変動問題のほか、世界経済、食料価格高騰、開発といった諸課題につき議論が行われた。

## (4) 会合の成果

3 日間にわたり、「世界経済」「環境・気候変

動」「開発・アフリカ」「政治問題」をテーマに議論が行われ、地球温暖化や原油・食料価格の高騰など地球規模の課題を世界全体で共有し、結束して危機を克服するとの決意が示された。



G8 Hokkaido Toyako Summit 2008  
議長記者会見を行う福田総理大臣

中でも、「環境・気候変動」については、「G8 として、2050 年までに温室効果ガスの排出を少なくとも 50%削減するという目標を、世界全体の目標として採択することを求める」との認識で一致し、G8 以外の主要経済国に協力を呼びかけていくこととされた。

「開発・アフリカ」については、極度の貧困を半減するなどの「ミレニアム開発目標」の達成に向けた決意が表明されたほか、特に保健分野では、各国の行動原則を盛り込んだ「洞爺湖行動指針」も打ち出された。

### 【サミット成果文書】

- ・議長総括
- ・G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言
- ・世界の食料安全保障に関する G8 首脳声明
- ・テロ対策に関する G8 首脳声明
- ・ジンバブエに関する G8 首脳声明
- ・エネルギー安全保障と気候変動に関する主要経済国首脳会合宣言



## 第3章 関連行事

### 1 配偶者プログラム

G8 首脳とともに来道した夫人は、サミット期間中、積極的にプログラムに参加し、日本の歴史、文化や北海道の自然との触れ合いが行われた。



お茶会 (7/7)

#### 【参加配偶者】

国名	氏名
日本	福田貴代子 総理大臣夫人
カナダ	ローリーン・テスキー・ハーパー 首相夫人
ロシア	スヴェトラーナ・ヴラジミロヴナ・メドヴェージェヴァ 大統領夫人
英国	サラ・ブラウン 首相夫人
アメリカ	ローラ・ブッシュ 大統領夫人
欧州連合	マルガリータ・パロージ 欧州委員長夫人

#### 【プログラム日程】

月日	時間	プログラム	場所
7月7日	14:00-14:45	十二単着付けデモンストレーション	ザ・ウィンザーホテル洞爺
	14:45-15:30	お茶会	
7月8日	11:45-12:00	北のまるしゑ視察(道民会議事業)	真狩村
	12:10-14:00	総理大臣夫人主催昼食会	レストラン・マッカーリーナ
	14:30-14:45	環境ショーケース	国際メディアセンター
	14:48-15:00	北海道情報館視察(道民会議事業)	
	15:05-15:50	ゼロエミッションハウス視察	
	15:50-16:05	エコカー試乗	
7月9日	11:10-11:55	J8サミット参加者との交流	洞爺湖ビジターセンター
	12:00-12:20	記念植樹(道民会議事業)	有珠山噴火記念公園

#### 【十二単衣着付けデモンストレーション】

ザ・ウィンザーホテル洞爺内のチャペルにおいて実施され、服飾評論家市田ひろみ氏により、源氏物語等を説明しながら、着付けのデモンストレーションが行われた。

#### 【お茶会】

福田夫人が亭主としてお茶のお点前を行い、夫人の茶道の師である裏千家の櫻井宗幸氏が解説を行った。G8 首脳夫人は、福田夫人が点てたお茶をいただいた後で、自らもお茶を点てられた。

### 【北のまるしえ視察】

しりべしサミット・ウエルカムプロジェクト実行委員会の協力のもと、道民会議の事業として実施された(視察の詳細は P85 参照)。「北のまるしえ」の視察後、隣接する百合園において、羊蹄山を背景に記念撮影が行われた。



北のまるしえ視察 (7/8)

### 【総理大臣夫人主催昼食会】

真狩村がフランス料理人中道博氏と共同ではじめたレストラン「マッカリーナ」において、福田総理大臣夫人が G8 首脳夫人を招いて開催された。

北海道の旬の食材がふんだんに使用された料理を挟んで、各国における省エネの取組などの話題が交わされた。



マッカリーナでの食事 (7/8)

### 【環境ショーケース視察】

ロボット「アシモ」の出迎えを受けるとともに、「触れる地球」の説明を受け、実際に地球儀に触れながら地球環境の現状や、日本の環境技術等を映像等で体験した。

### 【北海道情報館の視察】

道民会議の事業として実施され、高橋知事の案内で視察が行われた(視察の詳細は P85 参照)。



高橋知事による北海道情報館の案内 (7/8)

### 【ゼロエミッションハウス視察】

新しい断熱技術や太陽光発電技術等の説明とともに、泥団子づくり及び風呂敷包みのパフォーマンスが行われた。なお、道民会議では、関係団体と協力して、夕張メロン、チーズケーキやクッキーといった道産の果物やスイーツを提供した(道産スイーツ提供の取組の詳細は P92 参照)。



ゼロエミッションハウス視察 (7/8)

### 【J8 サミット参加者との交流】

J8 サミットに参加した 39 名の中高生との交流行事が行われ、「J8 アクション・プラン」の発表を受け、有珠山噴火についての映像を鑑賞した後、J8 参加者との歓談を行った。

### 【記念植樹】

道民会議事業として実施され、地元の子ども及び高橋知事が協力して記念植樹を行った(記念植樹の詳細は P119 参照)。

## 2 J8 サミット 2008 千歳支笏湖

J8 (ジュニア・エイト) サミットは平成 17 (2005) 年のグレンイーグルズ・サミットからサミット議長国がユニセフ等の協力を得て開催している G8 サミットの公式ユースプログラムである。G8 各国と G8 以外の 7 地域の国から選考された中高生が集まり、サミットに関連した地球規模の課題について討議し、G8 首脳と世界に向けた宣言を発表するもの。今回は千歳市において開催され、気候変動、貧困と開発(主にアフリカ)、国際保健に関し、その討議をまとめた「千歳宣言」及び「J8 アクション・プラン」が G8 首脳に提出された。

また、道内の子どもたちとの交流を目的とした道民会議主催の「環境と未来を語るつどい」(札幌市内)に参加したほか、首脳配偶者との交流(洞爺湖町)、アイヌ民族博物館の視察(白老町)や「いの

ちと環境」をテーマとしたコンサートの鑑賞(恵庭市)などのプログラムが行われた。

なお、日本の代表を選抜するにあたっては、(財)日本ユニセフ協会の主催により全国の中高生を対象とした J8 コンテストが開催された。全国から 67 チームが参加し、そのうち北海道からは 27 チームが参加、最終選考まで残った 6 チームのうち 2 チーム(和(市立函館高校・函館白百合学園高校)、PEACE KIT (立命館慶祥中学校))が北海道内のチームとなり、最終的には東京都のチームが代表となったものの道内の学生の健闘が目を見られた。

### (1) J8 サミット 2008 千歳支笏湖の概要

- ・期 間 平成 20 (2008) 年 7 月 1 日(火)  
～7 月 10 日(木)
- ・開催地 千歳市(支笏湖畔を含む)

#### ・日程

日付	時間	プログラム	会場	備考
7月1日(火)		J8代表来道		
	9:00-11:00	ブリーフィング・セッション	支笏湖ビジターセンター	
7月2日(水)	11:00-13:00	開会式兼歓迎行事	支笏湖畔広場	
	13:00-17:00	フィールドトリップ	支笏湖畔広場ほか	
7月3日(木)	9:00-16:30	「テーマⅠ：気候変動」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	19:00-21:00	カルチュラル・イブニング	ホテル日航千歳	
7月4日(金)	9:00-16:30	「テーマⅡ：貧困と開発」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	18:30-20:00	レセプション『Chitose Night』	ホテル日航千歳	千歳市事業
7月5日(土)	9:00-16:30	「テーマⅢ：国際保健」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	19:30-21:00	支笏湖湖水まつり会場散策	支笏湖畔	
7月6日(日)	終日	「千歳宣言」と「J8アクション・プラン」の作成	千歳市民文化センター	
	9:00-11:00	フォローアップ・セッション	千歳市民文化センター	
7月7日(月)	13:00-14:00	J8代表記者会見		
	19:15-19:30	J8代表とG8首脳陣との直接会合 【参加者：J8各国代表1名+途上国代表1名(計9名)】	ザ・ウィンザーホテル洞爺	
7月8日(火)	10:00-16:30	「環境と未来を語るつどい」	午前：北海道開拓の村 午後：モエレ沼公園	道民会議事業
	18:30-20:00	コンサート「葉っぱのフレディ いのちの旅」鑑賞	恵庭市民会館	
7月9日(水)	11:10-11:55	G8首脳配偶者との面会	洞爺湖ビジターセンター	
	14:00-15:00	アイヌ文化視察	白老町アイヌ民族博物館	
	16:00-17:00	記念植樹	支笏湖地域 丸山遠見	
	18:30-20:00	閉会式・さよならレセプション	休暇村支笏湖	
7月10日(木)		J8代表離道		



開会式・閉会式：千歳市支笏湖畔  
本会議会場：千歳市民文化センター

- ・参加者 G8 各国 4 名(32 名)  
G8 以外の 7 地域から各 1 名(7 名)  
(内訳①南アジア：ネパール、②東南アジア・太平洋：モンゴル、③東欧・中央アジア：キルギス、④中東・北アフリカ：イラク、⑤東部・南部アフリカ：南アフリカ、⑥西部・中部アフリカ：コートジボワール、⑦中南米・カリブ諸国：バルバドス)
- 合計 39 名

- ・議題 ①気候変動(Climate Change)  
②貧困と開発  
(Poverty and Development)  
③国際保健(Global Health)

- ・主催者 外務省、ユニセフ
- ・協賛 (株)日本航空、イオン(株)、アイ・エヌ・ジー生命保険(株)、ダノンウォーターズオブジャパン(株)、ソニー(株)、インテル(株)
- ・協力 読売新聞社

## (2)主な行事

### 【開会式兼歓迎行事】

7月2日(水) 11時から千歳市支笏湖温泉湖畔広場において、外務省、ユニセフ、環境省北海道地方環境事務所、千歳市、J8市民実行委員会の主催で開会式が行われた。

開会式は支笏湖国際太鼓ジュニアの太鼓演奏と歓迎の言葉で幕を開け、主催者側の挨拶に続いて北海道を代表して高橋知事が参加者に挨拶をした。

また、元サッカー日本代表の中田英寿氏が会場に現れ、多くのメッセージが書き込まれた大きな旗を J8 サミット参加者に手渡した。



J8 開会式 知事挨拶 (7/2)

### 【G8 首脳との直接会合】

7月7日(月) 19時過ぎから J8 サミット参加者 39 名の代表 9 名がサミット会場のザ・ウィンザーホテル洞爺において、気候変動、貧困と開発(主にアフリカ)、国際保健に関する討議をまとめた「千歳宣言」及び「J8 アクション・プラン」を G8 首脳に提出した。



「千歳宣言」、「J8 アクション・プラン」を G8 首脳へ提出 (7/7)

### 【J8 サミット 環境と未来を語るつどい】

第3編第5章3を参照

### 【コンサート「葉っぱのフレディ いのちの旅」鑑賞】

7月8日(火) 18:30 から恵庭市民会館で、恵庭市葉っぱのフレディ実行委員会の主催によるコンサート「葉っぱのフレディ いのちの旅」を J8 サミット参加者が鑑賞した。



コンサート「葉っぱのフレディ いのちの旅」を鑑賞 (7/8)



### 【G8 首脳夫人との交流】

7月9日(水) 11時過ぎから洞爺湖ビジターセンターにおいて行われた G8 首脳夫人との会合に J8 サミット参加者が出席し、自分たちができることをまとめた「J8 アクション・プラン」を発表した。



G8 首脳夫人との交流 (7/9)

### 【アイヌ文化視察】

7月9日(水) 14時から J8 参加者が白老町アイヌ民族博物館を訪問し、アイヌ民族伝統料理の試食体験をした。



アイヌ民族伝統料理の試食体験 (7/2)

## 第4章 NGO との対話

### 1 NGO の取組

日本の NGO は、平成 18 (2006)年から、貧困・開発、人権・平和、環境の分野を超えた連携を図り、平成 19 (2007)年 1月 31日(水)には、「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」(東京、141 団体)を発足させ、首脳の個人代表(シェルパ)や外務省などとの協議を重ねてきた。

また、北海道においても「G8 サミット市民フォーラム北海道」(63 団体)が平成 19 年 9 月 21日(金)に発足し、2008 年 G8 サミット NGO フォーラムとともに提言づくりや政府との対話を行い、平成 20 (2008)年 6 月 6日(金)には、高橋知事あてに「政策提言」を提出した。

これら NGO の主な取組は、次のとおり。

#### 【NGO と政府の対話集会】

平成 20 年 2 月 19日(火)、東京都の星陵会館ホールにて「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」と政府が意見を交わす「G8 NGO と政府の対話集会」が開かれた。

同フォーラムは、7月のサミットに向け、貧困・開発、人権・平和、環境の3分野で政策提言を行い、その後、政府側と意見を交わした。

政府からは福田総理大臣のシェルパを務める外務省の河野外務審議官と環境省の小島地球環境審議官が出席した。

#### 【Civil G8 対話】

平成 20 年 4 月 23日(水)及び 24日(木)、京都市の国際交流会館にて、NGO が事前協議で来日中の G8 各国のシェルパを招いて意見交換を行う「Civil G8 対話」が開かれた。

#### 【福田総理大臣との会談】

平成 20 年 6 月 18日(水)、「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」の代表メンバーは、海外の 10 団体の代表を伴って、総理官邸で福田総理大臣と約 1 時間半にわたって会談し、サミットで合

意すべき政策課題を説明した。また、市民からの政策提言をまとめた「首相への手紙」と市民から寄せられた「たんざくメッセージ」も贈呈した。

## 2 NGO センター

政府は、近年の国際社会における NGO が果たす役割の重要性や、過去3年のサミットにおける NGO への対応も踏まえ、留寿都村の国際メディアセンター内に NGO 専用ブース(NGO センター)を設けた。

### 【NGO センターへのアクセス】

国内外の NGO 代表(約100名、20カ国50団体)に対し、NGO センターへのアクセスを認め、専用の ID が発給された。

### 【NGO の選定】

NGO 関係者の選定は、「2008年G8サミット NGO フォーラム」を通じて国内外の主要な NGO に募集を行い、同フォーラムの意見及び関係省庁などとの協議を踏まえ決定された。

### 【NGO センターにおけるサービス等】

NGO センターへのアクセスを認める NGO 関係者に対しては、記者ブリーフのモニタリングを認め、作業室やブリーフィングなどのためのスペースを提供した。さらにシャトルバスの使用、食事の提供などについても報道関係者に準じた便宜が図られた。

